



温故知新



安全スローガン

まず確認 作業手順と危険予知 ルール守って無災害

今年も無事に1年間無事故無災害で、安全大会を迎えることができました。これもひとえに皆様方の御尽力の賜物と心より御礼申し上げます。また、来年も無事故無災害で迎われますよう、ご協力お願い致します。

現場での、急な作業変更からの重大事故やマンネリ化した現地KYによる事故。どちらも各社安全大会に参加すると良く耳にする災害です。当たり前前のことを毎日きちんと行う、ルールを守る。これらがとても重要になってくるかと思えます。みんなが自覚を持って行うことで、無事故無災害が達成されます。日々の現場での意識を高く持ち、安全第一で作業に取り組みましょう！

指差呼称
足元よいか？足元よし！
野田工業(株)



ご安全に！



【今号の主な内容】

- P① 安全スローガン
- P② 熱中症対策
- P③ 災害防止
- P④ ことわざ



発行

野田工業 株式会社
東京都中央区銀座6-6-19
TEL : 03-3572-1866
FAX : 03-3575-0420

ことわざ・格言にならう安全衛生訓

●我が刀で首を切る●

・「自業自得」と笑われないように

「我が刀で首を切る」とは、サムライの切腹ではありません。自分の落ち度のこと
で苦しむこと。自分で自分のことを責め、自分の振る舞いをしみじみ後悔するた
とえです。

「我が脛に鎌」、「罌をこしらえて首突っこむ」などのことわざも同じ意味です。

職場での事故や災害も、我が刀で首を切るの類が多くあるようです。自分がいつ
も使ったり運転する道具や機械の点検・整備を怠ったため、道具などが破損して自
分がケガをしたり、機械が異常を起こして事故や災害になってしまったなどがこの
例です。

誰も、すき好んで事故や災害を起こす人はいませんが、結局は、自分のやったこ
と手落ち苦しむこととなります。同僚が引き起こした事故や災害も同様です。

「我が刀で首を切る」ようなことのないよう、危険な箇所や危険な作業方法は改善
し、決められている作業手順や、安全ルール、注意事項を守って、事故や災害を引
き起こさないようにしましょう。



●割った茶碗をついでみる●

・次に失敗しないことが大切

「割った茶碗をついでみる」とは、割ってしまった茶碗をつなぎ合わせてみても、ど
うにもならないのに、何となく割れ目をつないでみてしまうものです。もともとになら
ないものに対して、いつもでも未練を持ったり、愚痴ったりすることのたとえです。

失敗したことをいつまでもくよくよするより、次に茶碗を割らないようにすることが
大切でしょう。もっとも、最近では性能の良い接着剤があるため、茶碗が割れてもつ
なぐことはできますが、ほとんど使い物にならず、また割ってしまうこととなります。

職場の中でも、工作中いろんな原因で器物をこわしてしまうことがあります。こわ
れてしまったことは仕方ありませんが、すぐに措置をとる必要があります。一番
困るのは知らん顔をされることです。他の人が使おうと思ったら使用できないで、
仕事に支障が出たりします。失敗したらいつまでもくよくよしたり、隠したりしない
で、直ちに原因を明らかにし、すぐに正しい対策をとることが大切です。

朝食が災害防止に？



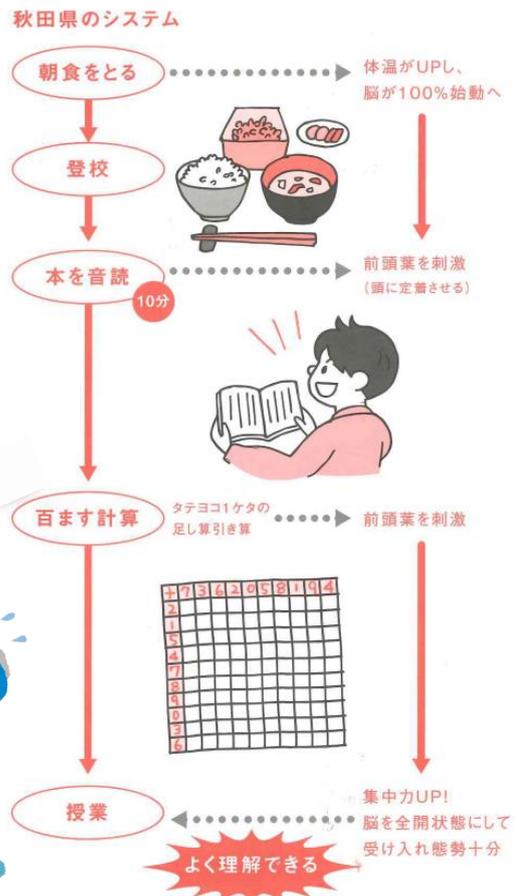
熱中症の原因として、「朝食を食べていない」ことがあげられます。就寝中に失われた水分を、朝食で補給することなく出かける。すでに熱中症になる準備ができている状態です。

人間は午前3時ごろに体温が一番低くなり、朝が近づくにつれて徐々に体温が上がっていき目覚めを迎えます。そして朝食をきちっととることによって、仕事や学校が始まるころには自分の平均体温になって、脳が100%稼働可能状態になります。さあ、やるぞ！と準備ができます。

一方、朝食を食べていない人はお昼近くになってやっと自分の平均体温になります。つまりそれまでは脳が最大約80%しか働いていない状態なので、危険な状態になっても脳の反応が鈍く、その結果、体の反応が遅れ災害を避けることができない、ということになります。

学校の授業で午前中に集中力の必要な科目が並べられ、午後からはゆったりとした情操教育科目を配置してあるのも理にかなっていると言えますが、最近は朝食を抜いて学校へ行くのでボーッとした状態で午前中を過ごすこととなり、授業内容を理解できない子供が増えているそうです。理解できないから塾へ行かせる。塾へ行かせるから帰りが遅くなり、夕食時間は不規則となる。就寝が遅くなるので朝近くに体温が下がり目覚めが悪い。目覚めが悪いから・・・と悪循環です。

たかが朝食、されど朝食です。ここに秋田県が学力テストで毎年全国1位の秘密が隠されているのです。



熱中症対策にマフラー？



夏場に汗をかくから、とタオルを首に巻いている人がいます。
「どうして？」

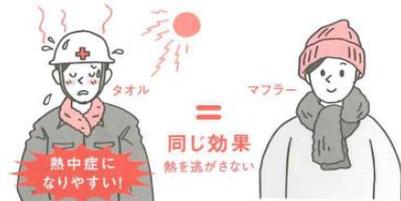
「腰にぶら下げていると機械や突起物に引っかかって危ないから。」
「タオルの端もシャツの中にちゃんと入れていますよ。」
と答える人が多いようです。

でも、よく考えてください。

なぜ、冬にマフラーを首に巻くのでしょう？

なぜ、プロゴルファーは夏場に襟をたててプレーするのでしょうか？

なぜ、太陽が背に当たるときマラソン選手は帽子のつばを後ろにして走るのでしょうか？



首筋からの放熱が大きいので冬場はマフラーを巻いて

熱を逃がさないようにしているのです。

プロゴルファーやマラソン選手は逆で、強い日差しが首筋に当たると呼吸中枢を狂わせ、結果、ショットや走行リズム、ピッチに影響が出るからです。

タオルを首に巻いている人は

「さあ、熱中症にかかる準備ができたぞ。」と言っているようなものです。

熱中症にかかった時の応急処置で**冷やさない**といけなところは、

首筋、わきの下、足の付け根となっているのも

太い血管が通っていて大きな発熱箇所だからです。



熱中症の応急処置で、服を脱がせて**体を冷やす**時に、

「冷たい水かける」という思い込みがあります。

気化熱で体を冷やすことを考えれば、「**常温の水か温水を霧状にかける。**」

それに加えて、うちわ、タオルや扇風機などで**風を送る**という処置がいいのです。

逆に飲ませる水は**冷たい水**。

ただし、**自分で飲める時のみ**与えないと肺に入って大変なことになります。

気分が悪くなったら、服をその場で脱ぐことは難しいので、

首筋を冷やして呼吸を整えることから始めましょう。

営業部門の人も簡易冷却パックを持ち歩いて、いざというときに使用できるように用意することが肝心です。

ただし、お肌を白く保ちたいために太陽に当たらないようにするのは、ビタミンDの生成不足をまねき、カルシウム摂取に影響を与えるので、別の意味で考えるところです。

